

鶏舎におけるネズミ対策について

畜舎内のネズミの存在は、飼料の盗食、配線ケーブル等を齧ることによる施設への障害、各種病原性の伝播等農家に様々な経済的損失をもたらす。特に近年は鳥インフルエンザ対策としてネズミ防除は重要な課題とされている。

本解説は鶏病研究会報（2014年、第50巻、4号）に掲載された『ネズミ対策』を参照したものである。

1 ネズミの生息状況調査

対策を行う前に現在の鶏舎内の様子や被害状況を調査し、記録する。これらの記録は対策後の効果判定に有効なデータとなる。

(1) 鶏舎にいるネズミの種類

養鶏場で問題となるネズミは、クマネズミ、ドブネズミ、ハツカネズミである。近年増加しているクマネズミは、学習能力が高く、警戒心が強い。

また、立体的な行動をとるため、天井裏や梁などの高所も対策をするべきである。

まずは下記の比較表を参考に、ネズミの種類と同定、また、推定を行う。

3種のネズミの比較

	ドブネズミ	クマネズミ	ハツカネズミ
頭胴長	200～260mm (比較的大きい)	146～240mm	60～100mm (最も小さい)
平均体重	300g	150g	10～20g
耳	小さい	大きい	大きい
糞の形態	太く、楕円形	細く先が尖っている	両端が尖っている
行動範囲	平面的	立体的	潜行的(潜んでいる)
特徴	体型はずんぐりで、尾は太い。 手足や腹部が白っぽい。側溝や土面に穴を掘って生息する。	鼻面が尖っており、体型はスマート、尾は長い。用心深く、慎重である。	

(2) ネズミ生息場所の調査

鶏舎内でのネズミの行動範囲はたいてい餌場、巣の周辺という具合に限局されている。これらの場所にはラットサインとよばれる糞や尿の跡、齧り跡、ネズミの体が柱や壁に擦られ黒くなっている箇所（ラブサインとも呼ばれる）が見られる。このラットサインを中心に対策を講じていく。

(3) 侵入経路の調査

ネズミは2～3cm程の隙間さえあれば、侵入することができる。具体的には、壁の小さな破損箇所、シャッターやドアまわり、電気ケーブルや配管などの引き込み口の隙間、コンベアの入り口などである。小さな隙間の場合には、パテや防鼠ビニールテープ、防鼠ブラシなどが有効であり、侵入経路を遮断する。

2 対策

(1) 環境的防除方法

畜舎内外の整理整頓は、経費がかからない最も効果的なネズミ対策となる。まずは、鶏舎外の草刈りや鶏舎にかかる枝の伐採等を行い、開けた空間を作る（図1）。

また、鶏舎内のネズミの餌場、住みか、通り道を撤去・清掃する（図2）。羽毛やビニールなどは格好の巣材となってしまう。完全に行うことは難しいが、できるだけ実施する。



図1 鶏舎周囲の除草
(写真出典 社団法人全国家畜産物
衛生指導協会)



図2 整理整頓された鶏舎内と
パテで隙間を埋めた配管

(2) 化学的防除方法

① 殺鼠剤の種類

殺鼠剤としては、主に下記のようなものがある。

種類	特徴	
リン化亜鉛	一度の摂取で死ぬ。十分に食べ無かった場合、その時の不快感から、ネズミが警戒し効果が出ない。	
クマリン系 (抗凝血剤)	ワルファリン	複数回の摂取で、数日後に死ぬため警戒されにくい。
	ワルファリンの 第2世代	1～2回の摂取で、2～3日後に死ぬため警戒されにくい。ワルファリン抵抗性ネズミにも効果があるとされている。プロマジオロン製剤等がある。

② 殺鼠剤の設置のポイント

a 毒餌の作り方

設置した殺鼠剤の摂取率が悪い場合には、ネズミが好むものを混ぜる。使用済みの油などは食品の匂いがついており、扱いやすく、食いつきが良い。
(例) ドブネズミ～動物性油脂や魚肉等。

クマネズミ～植物性油脂や種子等。

※ ネズミの群により、好みが異なることがあるため、出来れば事前に嗜好性を調査する。なお、殺鼠剤を扱う際には手袋をし、人の匂いが付かないようにする。

b 毒餌の設置方法

ラットサインのある箇所に毒餌を設置する(例: 図3)。また、出来るだけ毒餌を食べるよう、他の餌になりうるものは整理し、片付ける。

設置量は各薬剤の使用説明書に記載されているが、致死量に達するよう十分量設置する。摂取がなくても1週間程度は様子を見る。摂取されていれば、殺鼠剤を追加し補充する。また、殺鼠剤の設置箇所と設置量は記録し、喫食の程度を評価する。設置時期としては、オールアウト時が効果的。

設置個所の目安としては、直線では3~5mおき、
面積では1,000m²あたりに50~100個程度。

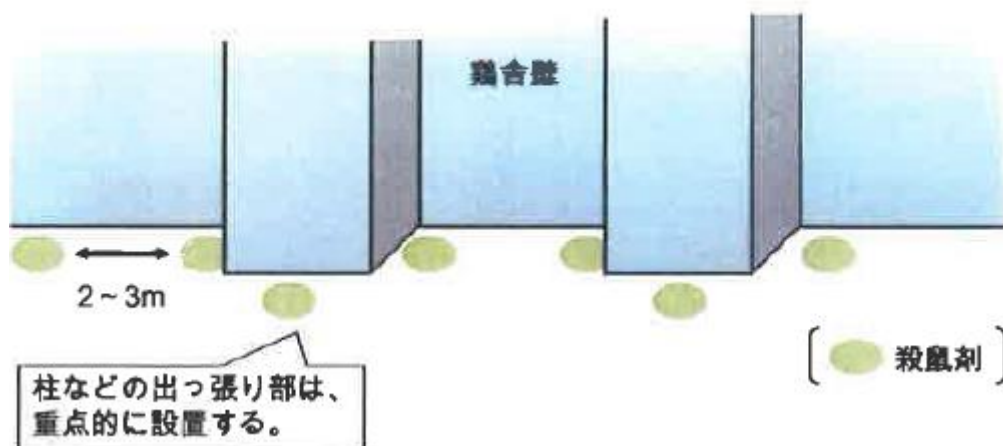


図3 鶏舎内での殺鼠剤の設置例 (中村ら. 鶏研会報. 33. 1-6. 1997. 原図改変
鶏病研究会より掲載許可)

(3) 物理的防除方法

粘着式捕獲器(粘着マット)は簡単に設置できるが(図4)、少数の設置
では効果は低いため、できるだけ隙間を少なくし、敷き詰める(図5)。
ただし、ホコリや塵が多い鶏舎では、随時、交換が必要となる。



図4 粘着マットにより捕獲したクマネズミ
(三重県畜産研究所 中小家畜研究課
西川 薫 原図、鶏病研究会より掲載許可)

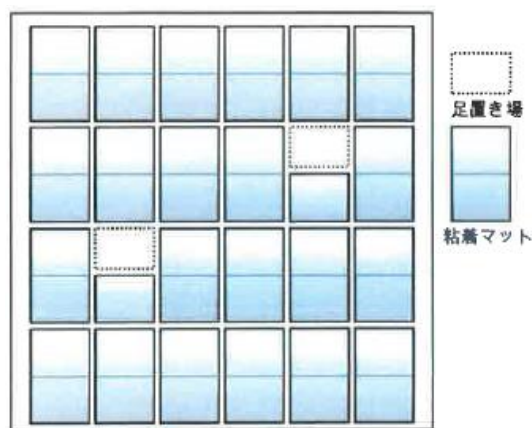


図5 粘着マットの設置イメージ
(鶏病研究会より掲載許可)

4 効果の見直しと改善

あらかじめ記録しておいた被害状況や捕獲されたネズミの数、また残存する生息数などから、実施した駆除方法を評価する。殺鼠剤を摂取しない場合の評価方法を図3に示した。効果が見られない場合は、それぞれ悪い点を考慮し、実施方法を改善する。

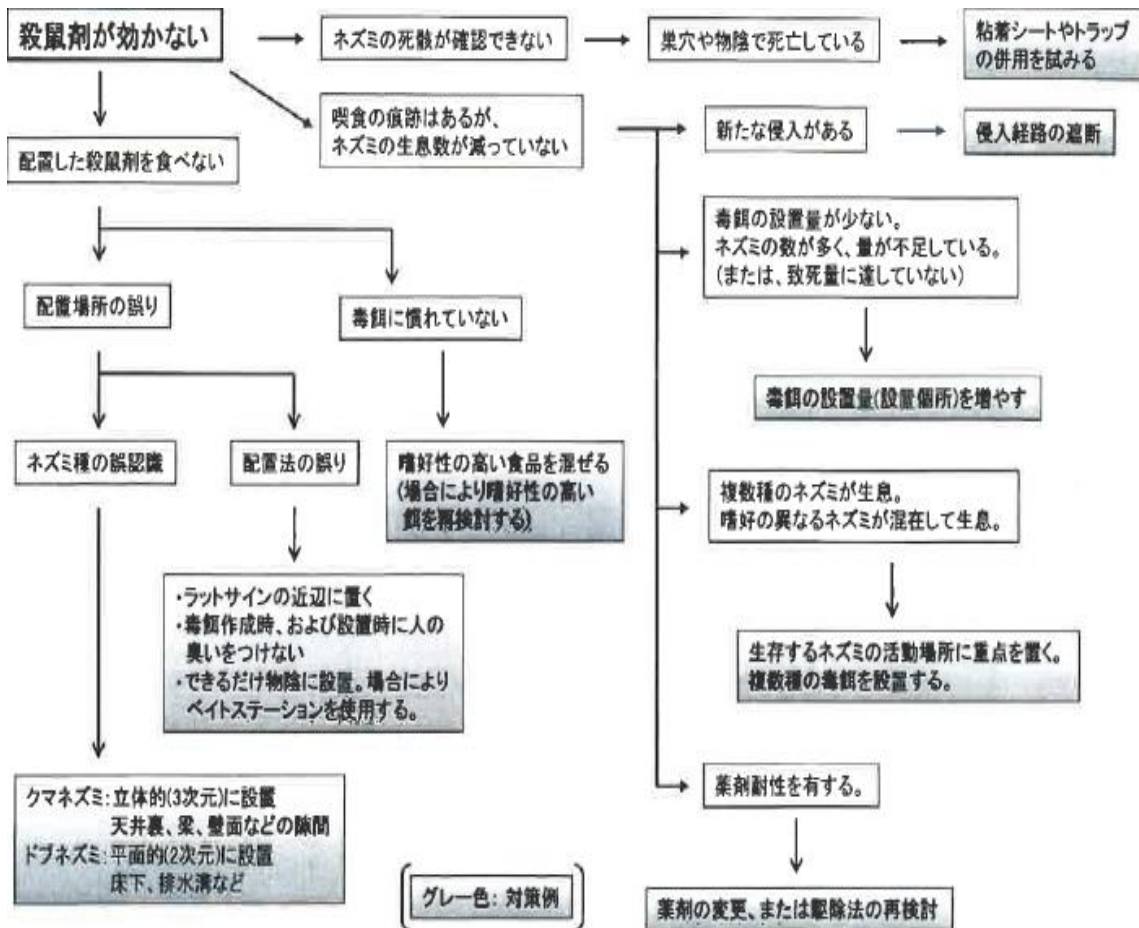


図6 殺鼠剤によるネズミ対策のポイント (略図)

(フジタ製薬株式会社 大浦洋嗣先生 原図改変、鶏病研究会より掲載許可)

○鶏舎におけるハエ対策について

(1) 発生源 (糞のあるところ) の対策

日常的な清掃により衛生管理区域内を清潔な環境に保つほか、堆肥舎等は昆虫発育抑制剤 (IGR剤) の散布により発生を予防しましょう。

(2) 急激な成虫の大量発生対策

環境の変化等により大量発生してしまった際は、ベイト剤や直接散布による成虫対策を行いましょう。周辺の養鶏場や野鳥で鳥インフルエンザが発生している等、特に自農場のリスクが高まった際は、今一度農場内にハエが大量発生していないかを点検しましょう。